



これまでは認知症になると何もわからなくなると思われていましたが、そうではないことが分かってきています。家族も一人で抱え込まず、専門職やこの認知症ケアパスの中の相談窓口にご相談してください。

家族が気づかれるより、本人が一番に違和感や不安を抱えています。認知症の診断があっても、すぐに何も出来なくなるわけではありません。出来ないことより、出来ることに目を向けてください。



コラム

認知症ちえのわnetは、認知症の人におこる様々な症状に対する皆さんの知恵(対応方法)や体験を公開するサイトです。皆さんのケア体験の投稿が役に立ちます。

認知症ちえのわnet▶



\\ ご家族からのメッセージ //

私は、高知県認知症コールセンターに在籍しています。私自身、実母と義母が認知症になり、2人を看取った経験から、認知症は本人だけでなく、周りの家族の心のケアも大切なことだと実感したことがきっかけでした。周りの友人が認知症かもしれない、どこに相談すればいいのか分からないといった困りごとにも寄り添います。認知症は急に進行するものではありません。周りのほんの少しの助けで、これまで通りの生活を長く続けていくことが可能です。相談機関はたくさん増えていきますし、匿名での相談ができます。認知症に関わってきた経験者が在籍しているので、いろいろな人に相談して様々な意見を取り入れることも出来ますよ。

1人で抱え込んで悩まないで、周りに頼ってください。

森澤 陽子さん



私は島根出身で、妻は高知出身。妻の帰省に合わせて何度も高知を訪れるたびに高知のことが好きになり、夫婦で移住。今はバーを営んでいます。店を始めたきっかけは2人ともが病気になるからです。元々乳がんを患っていた妻が認知症だと診断され、私も指定難病の病気だと判明しました。私たちのそう長くないこの先を思ったときに、2人が最後まで笑って過ごせる場所を作りたいと思い、バーを始めました。妻が乳がんだと告知を受けた時は頭が真っ白になりましたが、余命宣告を乗り越えて、今も元気な妻を見ていると、認知症と診断されても大きな落ち込みはありませんでした。認知症は確かに辛い病気ですが、死ぬわけではありません。毎日笑って楽しく過ごしていくことも大切だと思いますよ！

福島ご夫妻

